①	**久保田　康平**　７３歳　電気工学第三講座（発送電講座）、益子教授・中村助教授・平沙講師
②	卒業後関西電力株式会社に就職。一年目は近畿支社にて、発・変電所、給電指令所、修理所、保線所、建設所などの現場実習。二年目は本店・工務部中央給電指令所にて三交代勤務での実習。
③	二年目に本店・工務部に配属されてから、「希望する課を提出しなさい。」ということで、「中央給電指令所以外ならば、何処でも結構です。」という書類を提出しました。 中央給電指令所は、瞬時瞬時の電力需給バランス調整の実施、全社的な事故時の復旧作業指令、各時刻毎の主要ポイントの電力需要実績の把握などの業務を一斑 7 名の三交代勤務で行う所でした。土・日曜日関係なく一日のうちの朝・昼・夜のいずれか必ず会社に拘束されていなければならず、これを回避するための希望を出したのですが、希望に反しキッチリと中央給電指令所に配属されてしまいました。夜勤明けで家に帰っても睡眠がとれなかったり、三交代勤務に身体を慣らすのに苦労したり、電話だけで状況把握しなければならないことなどに苦労しました。が、この経験により支店の電気課長に就任していった際など事故発生時にも迅速に処理する方針を出したり、具体的な復旧対策立案などに大変役に立ちました。「苦あれば楽あり」を地でいった思いでした。 もう一つ、現役時代の思い出としては、企業内教育に従事したことでした。 中学卒の人達を一学年１００人三年生まで計３００人（三年終了時点で通信制高校卒業と同一資格取得）と工業高校卒の人達４５０人を一年間全寮制で教育する関西電力学園で高等部・専門部主幹という役職を務めたことです。知・得・技を身につけさせることの難しさを痛感しました。特に、寮内での規律保持と学生同士及び職員（１２０人）と学生間の信頼関係を築くことには苦労しました。丁度、全社的にデミング賞取得に挑戦していた時期でしたので、全科目の指導マニュアルを作成するなど教育システム構築に努力しました。が、「教育」は、システム構築やマニュアルで行われるものではなく、「情熱」により行われ達成されるものであるということを体得しました。
④	人生の大きな転機としては、父親が脳血栓で余命３年・手術の成功率５０％と診断された時、手術を回避して余命を満喫してもらおうと決断し、父親と５ケ国・１３日間の欧州旅行に行ったことです。
⑤	退職後は、１０年余勉強してきたスペイン語を活用するため半年間スペインでの生活を体験したり、各種カルチャー（スペイン語、音楽、京都社寺の花めぐり、シルクロードに関する講義など）に参加したりしています。
⑥	今は趣味を満たすために行動しているだけで、他には何もしていません。
⑦	そろそろ幕引きをしても良いかな？と思っている今日この頃です。

①	**杉山　毅至**　（74 歳）　第三講座　中村先生
②	早川電機工業（株）　中央研究所　特許課　（現シャープ㈱）大阪市、西田辺
	同上　組織拡大　知的財産権本部となる。 息子　子供二人、（長男　平成 15 年脳卒中にて急逝）　（小生の人生は、ここで終わり） 平成 9 年　定年退職
④	昭和 44 年　弁理士資格取得　一生の仕事となる。
⑤	定年退職後　特許事務所パート勤務　70 歳で退き、弁理士登録抹消
⑥	夫婦 2 人暮らし、日常　特に無く、対外的には、一切出ない。
⑦	同上
⑧	同輩諸兄の健康を祈るのみ